

製品名: Ku-70 (アセチル Lys317) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06224**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	69kDa

抗原情報

遺伝子名	XRCC6 G22P1
別名	X-ray repair cross-complementing protein 6 (EC 3.6.4.-) (EC 4.2.99.-) (5'-deoxyribose-5-phosphate lyase Ku70) (5'-dRP lyase Ku70) (70 kDa subunit of Ku antigen) (ATP-dependent DNA helicase 2 subunit 1) (ATP-dependent DNA helicase II 70 kDa subunit) (CTC box-binding factor 75 kDa subunit) (CTC75) (CTCBF) (DNA repair protein XRCC6) (Lupus Ku autoantigen protein p70) (Ku70) (Thyroid-lupus autoantigen) (TLAA) (X-ray repair complementing defective repair in Chinese hamster cells 6)
遺伝子 ID	2547.0
SwissProt ID	P12956

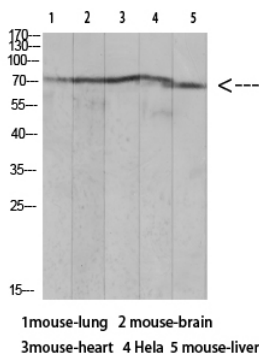
背景

p70/p80 自己抗原は、分子量約 70 kDa と 80 kDa の 2 つのサブユニットからなる核複合体です。この複合体は、一本鎖 DNA 依存性 ATP 依存性ヘリカーゼとして機能します。この複合体は、二本鎖切断修復、転位、V(D)J 組換えなどに必要な非相同 DNA 末端の修復に関与していると考えられます。全身性エリテマトーデス (SLE) 患者の一部において、p70 および p80 に対する自己抗体の高レベル検出が報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],発達段階: 前骨髄球分化過程において発現は増加しません。疾患: 全身性エリテマトーデス (SLE) および関連疾患の患者は、p70 および p86 に対する自己抗体を極めて大量に産生します。p70 の C 末端 190 アミノ酸 (ロイシンリピートを含む) に、主要な自己抗原エピトープが存在する。SLE 患者の血清中に存在する p70 に対する自己抗体の大部分は、この領域と反応すると考えられる。機能: 一本鎖 DNA 依存性 ATP 依存性ヘリカーゼ。染色体転座に関与する。DNA ヘリカーゼ II 複合体は、細胞周期依存的に二本鎖 DNA のフォーク状末端に優先的に結合し、3'-5'方向に作用する。DNA への結合は p70 を介している可能性がある。二本鎖切断修復および V(D)J 組換えに必要な DNA 非相同末端結合 (NHEJ) に関与する。Ku p70/p86 ダイマーは、DNA 依存性プロテインキナーゼ複合体 DNA-PK の調節サブユニットとして機能し、触媒サブユニット PRKDC の DNA への親和性を 100 倍に高めます。Ku p70/p86 ダイマーは、切断された DNA 末端を安定化し、それらをまとめる処理に関与していると考えられます。DNA 末端への DNA-PK 複合体の組み立ては、NHEJ ライゲーションステップに必要です。オステオカルシン遺伝子の発現に必要です。誘導:骨芽細胞では、FGF2 によって、PTM:PRKDC によるリン酸化はヘリカーゼ活性を高める可能性があります。Ser-51 のリン酸化は DNA 修復には影響しません。類似性:ku70 ファミリーに属します。類似性:1 つの Ku ドメインを含みます。類似性:1 つの SAP ドメインを含みます。この二量体は DNA 依存的に PRKDC と会合し、DNA 依存性タンパク質キナーゼ複合体 DNA-PK および LIG4-XRCC4 複合体を形成する。また、この二量体は NARG1 と会合し、この複合体はオステオカルシンプロモーターに結合してオステオカルシンの発現を活性化する。さらに、70 kDa サブユニットは骨芽細胞特異的転写因子 MSX2、RUNX2、および DLX5 と結合する。ELF3 と相互作用する。XRCC6BP1 と相互作用する。

研究分野

非相同末端結合;

画像データ



マウス肺ライセートのウェスタンブロット分析、抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。